


2. 人の役に立った経験が少ない生徒に向けて

・ねらい 他の人が描いた線を用いて絵を描くということを通して、自分が役に立っているという実感を持ち、お互いを認められるようにする。

・内容 他の人に線を描いてもらい、その線を利用して自分なりの絵を描く。自分の描いた線がどのような絵になったかを確認めるとともに、他の人がこの線を描いてくれたから自分はこの絵が描けたということに気付く。

・用意するもの A4判程度の画用紙、クレパス、感想を書くワークシート

・展開

	活動内容	指導上の留意点
P	・実態把握	・緊張感が強めの生徒や、心を開きにくい生徒がいる場合には画用紙の縁から1cmくらい内側に、フリーハンドで枠を描く作業を入れる。 
D	・説明を聞く。 ・6～7人のグループを作る。 ・誘引線を引く。	・グループの作り方は、実態に応じて、自由でもよいし、座席で決めてもよいし、くじ引き等を行ってもよい。 ・相手はその線をつかって、絵を描くことを考えながら線を引くように伝える。 ・線の色は自由。
	・グループ内で線の交換をする。	・誘引線を引いた画用紙をグループ内でシャッフルし、交換する。 ・自分で引いた線が自分にあたってしまったら、交換をするなどして、あたらないよう配慮する。
	・線を使って絵を描く。	・用紙をぐるぐる回してみても、その線をつかってどんな絵が描けるかを考えさせ、描かせる。
S	・発表する	・グループで各自の絵を鑑賞する。描いた人は、説明をする。説明を聞いていた人は、その絵のよいところをできるだけたくさん褒めるようにする。
	・各自が感想を書き、振り返る。	・ <u>感想から実態を把握する。</u> (P)

備考 色は塗らなくてもよいが、色を塗ることでカタルシスの作用があるので塗るとよい。また、用紙の大きさは大きいとそれだけ抵抗も強くなることもあるので、A4判程度がよい。

アレンジ例 (下線部分)

指導者は実践中に肯定的に声をかけるようにし、できればワークシートに一言ずつでも、コメントを書けるとよい。